

「学びの教室」

通信

駒本小学校特別支援教室直通電話 3827-5575 (ファクシミリ兼用)

令和4年5月26日
 特別支援教室「学びの教室」
 巡回指導拠点校・通級指導校
 文京区立駒本小学校
 校長 篠遠 信行
 文京区立汐見小学校(巡回校)
 校長 山田 晴康

協調運動

子どもたちの中には、キャッチボールに苦手感をもっていたり、「縄跳び」でうまく跳べずに縄に引っかかってしまったり、日常生活の中での運動に困難さをもっているお子さんがいます。

このような困難さがあるお子さんは、協調運動と呼ばれる「手と手、手と目、足と手などの個別の動きを一緒に行う運動」が弱い可能性*があるとされています。協調運動の例を挙げると、次のようなものがあります。

私たちがキャッチボールをする際は、ボールの動きを目で追いつつ、手や腕を中心とした上半身を動かし、飛来したボールをキャッチするという複雑な動作を同時に行っています。キャッチボールの相手が投げ損なって、思いもよらない所にボールが飛んで来た場合は、身体全体を動かして、落下点に移動しなければ、捕球することができません。また、「縄跳び」も、主に上半身を使って短縄を回しつつ、タイミングを合わせて跳ぶ動作を同時に行っています。

さて、前述のような協調運動に発達特性がある子どもたちのために、駒本小学校エリアの特別支援教室では「サーキット」という教材に取り組んでいます。この「サーキット」は、様々な種類の運動を組み合わせたプログラムで、楽しみながら自分の苦手な運動に取り組むことができるものです。

「サーキット」では、体育の授業とは異なり、他の子どもと比較される場面は、そう多くはありません。協調運動に弱さがあるお子さんは、大人が適切な介入を行う必要がありますが、各コーナーで担当教員がお子さんにあった運動負荷を提示したり、具体的なアドバイスや自然に動きが改善されるようなサポートを提供したりします。そのことで、子どもたちは安心して運動にチャレンジしています。

さらに、毎回の授業では、個別のめあてを立てています。小さなめあてであっても、「達成できた、うれしい!」という感情は、子どもたちを前向きな気持ちにさせてくれます。

*発達性協調運動障害という診断があるお子さんもいます。この発達性協調運動障害とは、日常生活における協調運動が、本人の年齢や知能に応じて期待されるものよりも不正確であるという障害です。



<6月のコミュニケーションタイムの主な学習予定>

「ジャンボジェンガ」

特別支援教室利用児童の多くから支持を集める人気の教材です。大型のブロックを使ったバランスゲームです。

●ねらい

- ・達成感や楽しさを味わい、進んで活動したり最後まで取り組んだりする態度を養う。
- ・どの部分を動かせばよいか、積み上げられたブロック全体を大きな視点で見



る力を向上させる。

・微細運動の能力を向上させる。

●学習指導要領「自立活動」

4 環境の把握

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

5 身体の動き

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

「天下ボール」

4色のセラピーマットで分けした陣地の中に、ボールをワンバウンドで打ち込むゲームです。ボールがワンバウンドせずに、陣地の外へ出てしまったり、打ち返しに失敗してしまったりして、ラリーが続かなくなった時点で、順位が1つずつ入れ替わります。

●ねらい

・勝敗にこだわり過ぎず、結果を素直に受け入れる態度を養う。

・目と手の協応を向上させる。

●学習指導要領「自立活動」

3 人間関係の形成

(2) 他者の意図や感情の理解に関すること

(4) 集団への参加の基礎に関すること

5 身体の動き

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

以上